

## 18) 難治性てんかんを有するLennox-Gastaut症候群患者の全身麻酔下歯科治療経験

○川合 宏仁<sup>1</sup>, 古山 昭<sup>1</sup>, 大須賀謙二<sup>1</sup>, 山崎 信也<sup>2</sup>  
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物,  
奥羽大・歯・口腔外科,

【緒言】Lennox-Gastaut症候群(以下, L-G症候群)は, 小児期に発症する年齢依存性の難治性てんかんで, 主に, 脳波異常および精神発達遅滞を合併する。今回われわれは, L-G症候群を合併する患者に対し, 数回にわたり日帰り全身麻酔下に歯科治療を行ったので, 若干の知見を加えて報告する。

【症例】患者は23歳の男性で, 身長155cm, 体重30kgであった。意識下歯科治療困難のため, う蝕治療を主訴に歯科麻酔科へ紹介となった。既往歴としては, 3か月時にてんかん発作が発現し, 薬剤治療が開始された。1歳頃に抗てんかん薬の調整を行い, その後, 服薬治療が開始され, 18歳時にL-G症候群の診断を受けた。現在の内服薬は, エグセグラン(ゾニサミド), テグレートル(カルバマゼピン), ダイアモックス(アセタゾラミド), プリミドン細粒(プリミドン), イーケプラ(レベチラセタム), ネキシウム, メチコバル, マグミット, フォリアミンであった。口腔内所見では, 多数のう蝕歯と歯石沈着が認められた。

【麻酔経過】当院にて合計7回の日帰り全身麻酔を施行し, 導入は酸素・亜酸化窒素・セボフルレンを用いて行った。静脈確保後は, プロポフォールとレミフェンタニルの投与を開始し, 気管内挿管を施行した。酸素・空気下に呼吸管理を行いながら, 歯科治療を行った。平均全身麻酔時間は113±27分, 平均処置時間は56±27分であった。術後管理では, 一時病棟に滞在させ, 水分摂取, 自己排尿可能となり, 痙攣発作, 発熱および嘔吐がないことを確認後帰宅させた。帰宅後は, 毎回全身麻酔当日の夜と翌日に体調確認を行い, てんかんの重積発作や体温上昇は認められなかった。

【考察】L-G症候群は難治性てんかんの一つで, その特徴である脳波の異常は睡眠や傾眠で誘発されやすく, 意識レベルの低下が痙攣発作の誘因と考えられている。全身麻酔の周術期では, 麻酔薬による意識レベルの消失や変化により痙攣発

作の誘因となることから, 日常の痙攣発作のコントロールが重要となる。本症例では, 1日約2回のでんかん発作が認められ, 1週間に1~2回の割合で重積発作が起こる状態であった。本症例では, 静脈確保がてんかん発作の誘因となることを避けるために全身麻酔導入後に静脈確保を行った。また, セボフルレンはてんかんを誘発させる作用があるものの, 現在の他の揮発性吸入麻酔薬と比較して, 有害な反射や事象を起こす可能性が低いことから使用した。しかしながら, 長時間のセボフルランの使用を避けるために, 静脈確保後はプロポフォールを全身麻酔の維持薬として投与した。さらに, 深麻酔下に保つことが全脳の代謝抑制となり異常脳波発生の抑制につながることから, 速やかな覚醒と強い鎮痛作用を有するレミフェンタニルを使用した。

【まとめ】L-G症候群患児に対し, てんかんの重積発作を起こすことなく日帰り全身麻酔下歯科治療を行うことができた。難治性てんかんを有する患児の周術管理において, プロポフォール, レミフェンタニルの使用は問題ないと考えられた。

## 19) 先天性部分(性)無歯症患者に対する包括的歯科治療の1例

○三宅 菜麻<sup>1</sup>, 川鍋 仁<sup>1</sup>, 山野辺晋也<sup>1</sup>, 宗形 真希<sup>2</sup>  
船川 竜生<sup>2</sup>, 関根 秀志<sup>2</sup>, 福井 和徳<sup>2</sup>  
(奥羽大・歯・成長発育歯<sup>1</sup>, 奥羽大・歯・歯科補綴<sup>2</sup>)

【目的】一般的に矯正歯科治療は健康保険の適用ではないが, 2012年4月に「6歯以上の非症候性部分性無歯症(現在, 疾患名変更)」として特定疾患に追加され, 6歯以上の永久歯の先天性欠如を呈する患者の矯正歯科治療が健康保険の対象となった。今回, 歯の本数が足りないことを主訴として来院した6歯以上の先天性部分(性)無歯症患者に対して, 矯正歯科治療とインプラント治療を行い, スペース確保後にインプラントを埋入することで良好な結果が得られたので報告する。

【症例】初診時年齢21歳6か月の女性。初回資料では, 側貌所見はストレートタイプ, overjet +2.5mm, overbite +5.3mm, 白歯関係右側Angle Class II, 左側Angle Class I, 全身疾患